

第23回寒地土木研究所講演会を開催しました

寒地技術推進室

平成21年11月27日（金）、かでの2.7（札幌市）で独立行政法人土木研究所第23回寒地土木研究所講演会を開催しました。当日は421名の方々にご来場をいただきました。

本講演会は、当研究所の研究成果や寒地土木技術に関連するトピック等を多くの方々に紹介するため昭和61年から行っており、今回で23回を数えます。

特別講演では、災害社会工学を専門とし、国や地方自治体で多くの審議会、委員会に携わり、防災行政の推進に貢献している群馬大学大学院工学研究科片田敏孝教授をお招きして、「最近の災害に学ぶこれからの地域防災」と題しご講演いただきました。片田教授は「災害対策基本法に基づき行政主体で進められてきた我が国の防災は、制定当時の毎年数千人単位の災害犠牲者をここ最近の百人程度に激減させることに貢献した。しかし、百人レベルの災害犠牲者をゼロにする段階において、これまでの行政主導の防災に限界が生じ始めている」と現状を分析した上で「これからの防災に求められることは、行政主導の防災から、住民・行政が共に主体的に自然災害に立ち向かう地域社会の構築である。特に住民に求められることは、防災に対する内発的な自助意識を持つことであり、併せて、地域特性、災害時の状況に応じた災害をやり過ごす知恵を身につけることである」と今後の防災のあり方を訴えました。

一般講演では、水環境保全チーム山下彰司上席研究員より「北海道における近年の降雪・積雪状況について～気象データの整理と積雪重量計でわかったこと～」、地域景観ユニット松田泰明主任研究員より「北海道における良好な景観形成と地域の豊かさの創出」、つくば中央研究所ダム構造物チーム山口嘉一上席研究員より「既設ダムの有効利用技術の最近の動向」と題し、それぞれ講演を行いました。

また、かでの2.7内で行われた「寒地土木研究所パネル展」では各研究チームの研究成果をパネル、模型、パンフレットなどで展示し、来場者から好評を博しました。

今年もたくさんの皆様のご来場を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

なお、講演会の詳しい内容は平成22年3月に寒地土木研究所月報講演会特集号として発行する予定です。

（文責：木津田 博文）

■主催者挨拶

（独）土木研究所寒地土木研究所長 川村和幸

■特別講演

「最近の災害に学ぶこれからの地域防災」

群馬大学大学院 工学研究科

社会環境デザイン工学専攻 教授 片田 敏孝氏

■一般講演

「北海道における近年の降雪・積雪状況について

～気象データの整理と積雪重量計でわかったこと～

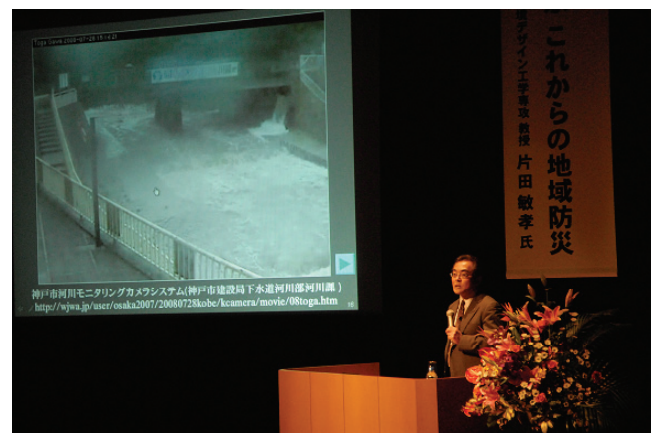
水環境保全チーム 上席研究員 山下 彰司

「北海道における良好な景観形成と地域の豊かさの創出」

地域景観ユニット 主任研究員 松田 泰明

「既設ダムの有効利用技術の最近の動向」

つくば中央研究所ダム構造物チーム 上席研究員 山口 嘉一



片田教授の講演の様子